

研究タイトル：

住宅地・建築ストックを活かす住環境設計



氏名：	伊藤 睦子 / ITO Mutsuko	E-mail：	ito.mutsuko@toyota-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(工学)
所属学会・協会：	日本計画学会 日本都市計画学会		
キーワード：	郊外住宅地、戸建住宅団地、空き家、建築ストック、リノベーション、参加型設計		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外住宅地・戸建住宅団地の実態調査 ・空き家・既存建築ストックの活用提案 ・住宅・施設の新築・改修に関する設計提案 ・利用者参加型の計画・設計プロセス支援 		

研究内容： 郊外住宅地と既存建築ストックの活用

人口減少、少子高齢化、空き家問題が顕在化するなかで、既存の住宅地や建築ストックを、地域の暮らしに適した形へどのように再編していくかを研究しています。特に、1970年代以降に一斉供給された郊外住宅地や戸建住宅団地を対象に、住民アンケート調査や、都市基盤・立地条件等の横断的比較を通じて、居住地選択理由、住環境への評価、地域に求められる機能等を分析し、成熟期を迎えた住宅地の課題と可能性を明らかにしています。これにより、一見同質に見える郊外住宅団地の固有性を捉え、住宅地の維持管理、次世代に向けた整備方針、広域的に見た全体最適、空き家の活用、地域施設の配置、住み替え支援など、今後の住環境改善に向けた基礎的知見の蓄積を目指しています。

建築設計においては、約20年にわたり、住宅、保育施設、店舗、地域施設等の新築・改修に意匠設計者として携わり、設計作品として外部評価を受けた実績を有しています。空間の造形的な質、使いやすさ、計画理論との整合性、地域や社会に対する意義を総合的に捉え、限られた条件の中でも建築としての価値を引き出す設計提案を行っています。また、施主・利用者・地域社会の関係を丁寧に読み解き、利用者参加型の設計プロセスによる空間づくりにも取り組んでいます。設計実務で培った構想力と、調査・分析に基づく研究的視点を接続することで、地域課題の把握から既存建築物の活用方針、改修計画、具体的な空間提案までを一体的に支援することが可能です。



郊外住宅団地の例
(埼玉県鳩山ニュータウン)



築45年RC造住宅の段階的改修
(八事山の家・改修)



内装制限を意匠化した木造車庫
(千種の木造ビル・新築)



共同参加型設計による学童保育所
(O学童保育所・内装)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	